NEWS LETTER IPPS JAPAN

IPPS

Sharing Plants Production Knowledge Globally
Japan Region Since 1995

IPPS-J ニュースレター

国際植物増殖者会議日本支部　2022. 1
No.68

http://www.ippsjapan.org
お問合せ・事務局　〒 441-8123
ＩＰＰＳ日本支部事務・会計理事　水谷朱美　愛知県豊橋市若松町字北ヶ谷 244
E-mail : a.mizutani@verde-agribio.co.jp　TEL0532-25-8712 FAX0532-25-8486

新会長を拝命し

ＩＰＰＳ－Ｊ　会長　速水正弘

あけましておめでとうございます。

猛威を振るった新型コロナウイルスがようやく収まってきたと思いきや、再びオミクロン株が出現し、併せて年末年始の人の動きも重なり、まさにとてつもなく大きな第６波に突入しています。

しかし、人類の英知がこれまで様々な病気に打ち勝ってきたように、コロナについても遠くないうちに、「あの時は大変だったね。」と笑って言える時がきっと来ると私は信じています。

さて、そんな大変な中、宮崎で予定されていたＩＰＰＳ－Ｊの大会は中止せざるを得ず、総会も開催することができませんでした。理事会も開催することが困難な状態であったため、新役員が決められず、水谷会長をはじめ全役員の任期を１年延長させていただきました。また、昨年に延期した宮崎大会は、やむなく中止といたしました。

このことから、年初に開催した理事会で、現理事・理事代理の中から次期役員を選出し、皆さんに本紙面で報告し、承認をいただく運びとなりました。

ということで、役不足かもしれませんが私が新会長を拝命いたしましたので、どうかよろしく御協力の程をお願いします。

さて、今年は本来岐阜で国際大会が開催される予定でしたが、このような状況の中、海外からのお客様の来日が危ぶまれる状況ですので、海外会員を呼ぶ国際大会は中止とさせていただき、国内会員のみの年次大会については是非開催したいと考えています。幸、オミクロン株は感染力は強いもののワクチンの効果があるのか、比較的重症化はしにくいようですし、今後新たな変異株が出現しても、飲み薬等が普及してくることで、それほど恐れなくてもよくなることを祈念しまして、私の新年と新会長就任の挨拶とさせていただきます。

新役員と今後の大会の計画につきましては、このニュースレターの最後の頁に記載してありますので、ご覧いただければと思います。

なお、引き続きニュースレター編集を担当させていただくことになりましたので、是非皆様の積極的な投稿を、お願いします。

2022年を迎えて

IPPS-J事務局　水谷朱美

皆様

明けましておめでとうございます。

昨年秋からこのまま終息に向かうかと思うほど感染者が減りましたが、オミクロン株の出現で、過去最多を日々更新する状況となりました。

会長在任中は、何かとお助けいただき、ありがとうございました。

事務局を交代してから、新型コロナの感染拡大もあって活動がすっかりお休みしてしまい、皆様には「どうなっているのか？」とご心配をお掛けしてしまっており、お詫びの言葉もございません。新型コロナ感染拡大状況を見ながら、活動を再開していきます。

このニュースレターとともに会費請求の書面を同封させていただきますので、郵貯口座へご入金をお願いし、IPPS-J継続のためご協力をよろしくお願いいたします。

1年延期された岐阜大会が、10月22日・23日に開催を予定しています。

実行委員長は、岐阜大学の落合先生です。セントラルローズの大西さんも協力してくださいます。

国際ツアーをパスさせてもらったため、これまでのようにこぢんまりとした大会が開催できると思いますので、お申込みよろしくお願いいたします。

IPPS-J　水谷朱美

〒441-8123　愛知県豊橋市若松町字北ヶ谷244　（株）ベルディ内
IPPS日本支部事務・会計理事
水谷朱美
TEL：0532-25-8712
FAX：0532-25-8486
E-mail：
a.mizutani@verde-agribio.co.jp
http://www.ippsjapan.org

会費御振込の際の注意事項

本会の公式名称は
『国際植物増殖者会議日本支部』
ですが

振込先の名称は
『日本植物増殖者会議』
となっています。

金融機関はゆうちょ銀行で、
口座番号は、00860-0-60982
です。

第 27 回岐阜大会へのお誘い

岐阜大学応用生物科学部園芸学研究室

落合正樹

令和 4 年度の日本支部大会は、10 月 22 日（土）・23 日（日）に岐阜県にて開催いたします。

1 日目の 10 月 22 日（土）は、岐阜駅からほど近い岐阜市文化センターにて、研究発表・基調講演・総会を行い、夜は願わくは懇親会を開催いたします。研究発表につきましては、大学や試験場等での研究内容の報告に限らず、企業等での実践的な取り組みの紹介も大歓迎です。

2 日目の 10 月 23 日（日）は、岐阜市近郊の生産者圃場の見学ツアーを計画しています。

新型コロナウイルス感染症による影響はまだまだ先が見えない状況ではありますが、3 年ぶりに多くの会員の皆様が会し、気兼ねなく談笑し飲み交わせる日が来ることを心待ちにしています。

参加および発表の申し込みはしばらく先となりますが、皆様のご参加をお待ちしています。

非会員や学生の皆様のご参加も大歓迎です。

岐阜大学 応用生物科学部
落合 正樹

第 27 回岐阜大会

2022 年 10 月 22 日（土）研究発表、基調講演
10 月 23 日（日）生産圃場等視察見学

苦難を乗り越える

有限会社セントラルローズ

代表取締役　大西　隆

新型コロナウィルス感染が始まってもう一年半以上がたちます。ワクチン接種も順調に進んでいるように思われますが、いまだその感染の終息が見えない状況にあります。開催するか否かと社会を二分した東京五輪も何とか無事に終わり、期待したとおり日本の金メダルラッシュに湧いたオリンピックでした。

コロナウィルス感染が広がってからの一年半を振り返ると、世の中のリズムや生活習慣が大きく変わり、今までに経験したことのないような事態となりました。国内での開催予定の行事などもほぼ中止や延期に追い込まれ、我々の生活実態も大きく変わり行動の自粛やステイホームが勧められるような非常事態宣言も出されました。この間には特に観光業などを中心とするサービス業界は大打撃を受け、国内経済もまわらなくなってしまい全ての業界が混乱と大きな打撃を受けました。

私が関わる花き業界も同じく今までにない厳しい状況になりました。特に昨年の3～5月にかけての年度末、年度始めの催事や結婚式等の冠婚葬祭事業が中止や延期となり、いわゆるお花の業務需要が大きく減少しました。価格は大暴落し市場には行き先を失ったお花が山積みにされ廃棄処分となっていました。生産者も同じく圃場にて廃棄処分をせざるを得ない状況で大打撃をうけ、途方に暮れる状況でした。

しかし我々農業を営む者にとって休む訳にもいかず、この事態にも生産管理をしっかりと行って迷

うことなく今やるべきことをしっかりと行って、将来この事態が好転することを信じて乗り切ってきました。

各行事の自粛やステイホームをする状況の中で、見直され再認識されたのが農業ではないでしょうか。我々生きていく上において唯一一番大事な食が見直され、また生活する中で精神的に混迷を深める時癒しを求めてお花を飾ることなど、今まで何気なく過ごしてきたことが改めて生活をする中で農業の大切さが認識されたように思います。

この一年半、園芸業界は一時的に大きな打撃を受けましたが心配したほどの落ち込みもなく推移してきました。ステイホームによって家庭園芸を中心に、花壇苗や野菜苗の需要が多くインドアグリーンも今までにない需要があり品不足も出ている状況にもなりました。これも精神的に癒しを求めることが顕著に現れたものと思われます。

国際化時代において農産物もかなりの量を輸入に頼っていたところもあったと思いますが、この事態で海外とのインフラがストップしたことにより国産農産物が見直され、その大切さも認識されました。これからの日本国民の食糧を供給する大事な日本農業をどう構築していくか、考えさせられた良いきっかけとなったと思います。また東京などの大都会での生活に不具合を感じ、地方の田舎に移住を考える人々やテレワークなどの仕事の変化により、地方でも仕事が可能ということで改めて地方の田舎が見直されたところもありました。

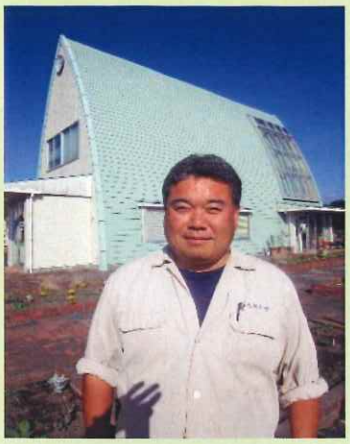
時代は大きく変わり、生活習慣やビジネススタイルも変わり以前のような状況には戻らないと思われます。この事態がすぐに終息し好転するとは思えない現状において、我々花き業界もこの山を乗り越えて、新しい時代新しい生活スタイルにどう生きていくかを考えながら、変化する時代に対応できる能力を身に着けることも大事な事かもしれません。

大西　隆

南九州大学環境園芸学部附属フィールドセンターで行われている実習教育の紹介
～その①～

南九州大学環境園芸学部附属フィールドセンター

尾﨑　勝也



～はじめに～

南九州大学環境園芸学部附属フィールドセンター（教学）では、環境園芸学部の教員と技能職員が連携し、「実習教育」「資格取得支援」「技術研究」「社会貢献」の４本の柱に基づき、実践的なカリキュラムやフィールド研究を行っています。

４年間で約 130 の講座（座学・実験・実習）が行われている中の約 35 項目の実習授業を「実習教育」として、フィールドセンターが携わっています。
その中でも今回は、前田隆昭教授が担当されている果樹園芸学の実習について紹介したいと思います。

～実習の取り組み内容について～

果樹の実習が行われている主な実習授業は、1 年前期「環境園芸実験実習Ⅰ」、1 年後期「環境園芸実験実習Ⅱ」、2 年前期「園芸生産環境実験実習Ⅰ」、2 年後期「園芸生産環境実験実習Ⅱ」の 4 つの実習授業で行われており、各々オムニバス形式で何名かの先生が週替わりで担当しています。その中で果樹の実習授業が行われています。

現在、果樹の実習は、主に都城市三股町内にあるブルーベリー農家さん宅（大学からマイクロバスで 10 分弱）での実習、都城市内にあるパッションフルーツ農家さん宅(大学からマイクロバスで 20 分)での実習と地域の農家さんと連携させて頂き、1 年を通じて現場実習を中心に行っています。

『都城市三股町のブルーベリー農家さん宅での実習』

＜5～7月管理＞

このブルーベリー園は、完全無農薬栽培をしているので、ミノムシやイラガ、シャクトリムシといったブルーベリー樹を害する虫は、手で除去していきます。また、クモに関しては、虫を捕獲し食してくれるということで、管理に邪魔にならない限り、そのままにしておきます。

＜施肥＞

3月、6月、9月を目途に、施肥をします。施肥は、ぼかし肥料と米ぬかとピートモスを混合したものです。まず、園内の除草を行ない、ブルーベリー樹の株元に円型に施肥します。その後、施肥した上に土を被せます。

＜剪定＞

12月から1月にかけて行ないます。農家さんのレクチャーをうけて、圃場での指示のもとブルーベリー樹を剪定します。切った枝は園外に持ち出し、チッパー機にかけます。チッパー機にかけた剪定枝は、腐葉土化して、園内に戻します。

＜防虫ネット用の骨組み作成と取り付け＞

これまで農家の方がお手製で作られていた防虫ネットの骨組みが、劣化と台風によって倒壊したため、資材を購入し、実習で新しく作り直しました。柱は、直管パイプを使用して、ハンマーで打ち付けます。実習時期は冬でしたが、みんな汗だくで頑張りました。
作成期間は、9:00~16:00 を 1 日としたら、3 日間ぐらいかかったと思います。

図面作成から全て実習で行いました。

『都城市内のパッションフルーツ農家さん宅での実

パッションフルーツ農家さん宅での実習をし始め当初は、2連棟のハウスが1つしかありませんでした。しかし、実習を通して年々ハウスを増設していき、現在では、パパイヤ・チェリモヤ・ジャボチカバ・アボカド・バナナ等の熱帯植物が大小 5 つのハウスで栽培されています。

＜パッションフルーツハウスの作成・ビニル張り＞

パッションフルーツ農家さんのご指導のもと、ハウスの骨組み作成から天窓ビニル張り、側窓ビニル張り、防寒対策用の内張りなど、みんなで協力しながら行っていきました。

中には、6月に天窓ビニルを張ったのに、8月の台風で破れてしまい、9月に張り替えこともありました。

脚立にのり、骨組みの組み立ても学生は頑張ってやってくれました。

また、露地植えのバナナの防寒対策として、11 月の実習で不織布を巻きました。

＜パッションフルーツの管理＞

パッションフルーツ果実は、熟してくると自然に落下してしまい、落ちた衝撃で果実に傷がつくので、自然落下防止策で、離れる節と節とを洗濯バサミで止めます。果実の色が緑から赤に変わり、洗濯バサミを外し、果実が落ちたら収穫です。

＜バナナ温室の作成と露地バナナの防寒対策＞

昨年の夏期を通じて、バナナ温室を作成しました。高さ 4.5 m の四角型のパイプ柱の埋め込みから、穿孔機を使用し、1 つ 1 つ丁寧に立てていきました。都城市が全国の最高気温を記録した日も実習を実施しており、パイプを素手で触ることが危険でした。

～最後に～

以上、簡単ではございますが、主要なところを抜粋し、紹介させて頂きました。このように果樹の実習では、地域の農家さんとの連携を強化しており、実習時には農家さん宅に出向き、現場指導のもと、より実践レベルでの実習教育を中心に行っています。座学で知識を学び、実習授業で技術・実践力を身につけることができるという、とてもバランスのとれたカリキュラムとなっています。受講生の声も「もっとやりたい」「次はいつここに来れますか？」「とても楽しかった」などと言ったことをよく聞きます。また、今回、紹介した果樹の実習は園芸学分野の１つの実習項目であり、環境園芸学部環境園芸学科は、園芸学分野（園芸生産専攻、バイオ育種専攻）・造園学分野（造園学専攻、花・ガーデニング専攻）・自然環境分野（自然環境）の３分野５専攻とあり、それぞれの分野で様々な魅力ある実習授業が行われています。機会があれば、紹介していければと思います。

尾﨑勝也

IPPS-J 第十二期理事・監事・役員・理事代理（2022.1.1～2023.12.31）.

	役　職	氏　名	担　当	会 社 ・所 属
1	会長	速水　正弘	ニュースレター	
2	副会長	文室　政彦	滋賀大会	
3	副会長	前田　隆昭	宮崎大会	南九州大学
4	編集理事	冨田　正徳	ホームページ	バイエルクロップサイエンス(株)
5	国際理事 事務・会計理事	水谷　朱美		(株)ベルディ
6	理事	藤森　忠雄		
7	理事	落合　正樹	岐阜大会	岐阜大学
8	理事	鈴木　智子		静岡県経済産業部農業局
9	国際交流推進委員	大森　直樹	IPPS 活性化	NEXT Innovation(株)
10	監事	大橋　広明		愛媛大学
11	本部国際理事	Peter F.Waugh		Carann
12	年史編纂委員	鉄村　琢哉		宮崎大学
13	理事代理	大西　　隆	岐阜大会	(有)セントラルローズ
14	理事代理	内田　恵介		グリーンクラフト
15	理事代理	尾﨑　勝也	宮崎大会	南九州大学

IPPS-Jの大会予定

※大会を開催したい方は早めに事務局へ申し出てください。

2022年10月22日(土)～23日(日)　第27回 岐阜大会（担当：落合正樹氏）、岐阜県岐阜市
2023年10月14日(土)～15日(日)　第28回 滋賀大会（担当：文室正彦氏）、滋賀県近江八幡市（予定）
または　10月21日(土)～22日(日)
2024年　第29回 宮崎大会（担当：前田隆昭氏）、宮崎県都城市（予定）

編集後記　コロナの影響で、会の活動が全く進まず、ニュースレターの発行も大幅に遅れたり飛んでしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。

昨年の秋よりコロナの新規感染者が急減し、一瞬希望の光も見えたのですが、今年に入り再び急激な増加が始まり、まさに危機的な状況となっています。しかしながら、これまでの波も１～２か月で減少に転じていることから、この第６波が早めに収束し、新たな変異株が出現することなく、最後の波になってくれることを期待してやみません。

岐阜大会に併せて開催する予定でした、日本での国際大会は中止となりましたが、国内大会としては開催されますので、３年ぶりに皆様にお会いできることを楽しみにしています。

ニュースレター担当：速水正弘